

ベルリンの画廊と博物館 Galerien und Museen in Berlin

柴田 隆行
Takayuki Shibata

1. ヘーゲルがベルリンで見た絵画の記述

ヘーゲルは、1818/19 年の冬学期にハイデルベルク大学からベルリン大学へ移籍したのち 1831 年に没するまでベルリンに居住した。1818 年夏学期にハイデルベルク大学で初めて美学講義を始めてからドレスデンやドイツ西部、オランダ、ベルギー、ウィーン、パリ等へ芸術鑑賞旅行をしたヘーゲルではあるが、滞在時間の最も長いベルリンでも多くの絵画や銅版画等を見たにちがいない。

たとえば、ベルリン大学での最初の美学講義(1820/21 年冬学期)でヘーゲルはコレッジョの〈聖フランチェスコ〉に触れつつ、「とりわけ美しい祈る寄贈者たちの像はソリーのコレクションのなかにある」(1820/21 *Hegeli-ana*, S.262, GW28.1, S.168, 石川訳 252 頁)と語られる「ソリー・コレクション」は、のちの 1830 年に開館するベルリン博物館の中心をなす絵画コレクションである。

1821 年 9 月にドレスデンへ行った際、妻宛に送った書簡(Briefe, II, S:292. Nr.402. an seine Frau. [Dresden] Donnerstags früh 20/9 [18]21)に、美術館で「とくに熱心に見たのはホルバインの絵です。この複製はベルリンで見たことがあります(註)」と報告し、ドレスデンにある絵とベルリンにある絵とでどちらが真作かを評している。「とくに注意を引いたのはこの絵の情景で、3 人の女性のうち真ん中の人物の顔色と市長の鼻、そしてマリアの腕に抱かれた子が際立っています。——両者の状況に関して言うと、ベルリンの絵のほうの情景は、単独では良い絵だとしても、弟子が描いたとすぐにわかります。——ここ[ドレスデン]の絵の子どもは明らかに病的で意図的です。天の聖母の腕に見られる子は寄進者たち[市長の家族]の死んだ子であり、この場から彼らに慰めと献身を届けているのだという、このの監査官の陳述は正しいと私は確信します。この陳述が正しいのは、ほぼ中心の下に子どもが立っていることで証明されます。この絵に描かれたこの子はとても美しい。ベルリンの絵は、器用に作られてはいるがとくに精神が欠けている複製であることは私にはまったく疑いがありません。」と自信満々である。だが、ヘーゲル往復書簡集編者のホフマイスターによると、「くだんのハンス・ホルバイン(子)の〈マイアー市長の家族とともにいる聖母〉は、現在ダルムシュタットの城にある。ベルリンの絵は、販売用に展示されて、翌年プロイセン王子ヴィルヘルムが購入したが、のちに彼の遺品からこれがヘッセン・ダルムシュタットに來たのである。1871 年に開かれたホルバイン展で、これが原作として認められた。したがって、ヘーゲルの時代にドレスデンにあったのはこの絵の複製にすぎない。両者の絵の比較についてはヴォルトマン『ホルバインとその時代』を参照せよ。」ということで、ヘーゲルの判断はハズレだった。いずれにせよ、この書簡から、ヘーゲルがベルリンでもホルバイン等の絵画を詳細に見ていることがわかる。

1822 年 10 月 3 日にブリュッセルから妻宛に送った書簡(Briefe, II, S.355f. Nr.437. an seine Frau. Brüssel 3. Okt. [1822], Donnerstags früh)でヘーゲルは次のように報告している。マリアはドレスデンのものよりこのほうが私には愛らしく思えます。マリアも、ドレスデンのではまわりの人たちが微笑んでいるのと同様です。——すべてが明朗——だが真剣で、サンスーシにあるコレッジョの絵画、この巨匠の後期の作風ののものに見られる闇は最高に優れたものです(註)。」書簡集編者ホフマイスターの註によると、「ヘーゲルが個別にどの絵のことを思っているかを語るのは困難である。ベッテンドルフはミケランジェロもコレッジョも持っていなかった。サンスーシにあるコレッジョの作品は古くからある模写として通っており、原作はナポリ(く逃避途上の休息、いわゆるジブシ

一女))とロンドンのナショナルギャラリー(〈愛の教育〉)とウィーン(〈ユピテルとイオ〉)にある。だがおそらく、フリードリヒ大王が所有し、1830年にベルリン博物館にきた有名な「レダ」も入るだろう。この絵は当時まだサンスーシにあった」。つまりここでは、ヘーゲルがサンスーシ宮殿にある画廊で名画を鑑賞したであろうことが暗示されている。

1826年夏学期の美学講義でヘーゲルが言及したファン・エイクの絵は、上述のソリー・コレクションの絵を指す、と講義録編者のゲートマン＝ジーフェルトは書いている。

神を教師として表象する最大の巨匠の「頭」の多くは、遂行の面からして、あらゆる賞讃に値する。しかし、わかることは、その「頭」が彼を神人として表現すべきものに対応していない何かを自分の中に持っているということである。多くの人は、ギリシアの理想の「頭」を選んだが、しかし、これは神的内性や愛の表現に反している。大、中、高とか友情は、これによってよく表現されるが、神人的なものとは表現できない。輝かしい完成においてファン・エイクはキリストの「頭」を伝承した。(1826 Kehler, S.184f.)

1827年10月7日にヘーゲルが妻宛に送った書簡では、ヘントにあるファン・エイクの絵に触れ、「その美しい断片を私たちはベルリンに持っています」と書いている(Briefe, III, S.200. Nr.565. an seine Frau. Brüssel, den 7 Okt. [18]27)。これについて、書簡集編者ホフマイスターはつぎのような註をつけている。「この祭壇画は、エイク兄弟の主要作品である。目下ヘントの聖バヴォ教会にある(かつては聖ヨハネス教会)。もとは脇を色づけされた12枚の板で成り立っており、子羊の秘儀が描かれている。ヘーゲルの時代は中央の絵と2枚の板がヘントにあったが、6枚の幅広い板はベルリン博物館がその最大の宝物として所有した。——その他、ヘーゲルが訪問した時にブリュージュにはエイクの他の作品もあった。アカデミーにある〈子を抱くマリア〉(1436年)とか〈ヤン・ファン・エイク夫人の肖像〉(1439年)とかである。」

2. ベルリンの絵画館

ベルリンでヘーゲルが絵画を見ることのできた絵画館として、ベルリン王宮(Lustgarten にあったいわゆる Stadtschloss)の画廊、シャルロッテンブルク宮殿の画廊、モンビジュ宮殿の画廊、サンスーシ宮殿の画廊、そして、ジュスティニアニー・コレクション、ソリー・コレクション、1830年設立のベルリン博物館、ベルリン芸術アカデミーなどが想定しうる。

ベルリン博物館設立委員でベルリン大学教授アロイス・ヒルトがベルリン教育省に宛て出した1820年12月6日付書簡(Aloys Ludwig Hirt an das Ministerium der Geistlichen-Unterrichts- und Medicinal-Angelegenheiten Berlin, in: *Jahrbuch der Berliner Museen. Ehemals Jahrbuch der Preußischen Kunstsammlungen, Neue Folge*, Bd.39, Beiheft. Das Königliche Museum zu Berlin, von Christoph Martin Vogtherr, Berlin 1997, S.264)によると、各宮殿からベルリン博物館に提供される予定の絵画作品は、サンスーシ宮殿画廊から117点(イタリア派絵画43点、オランダ等74点)、新宮殿(Neues Palais)各部屋から70点、シャルロッテンブルク宮殿から16点、ベルリン宮殿中央階から64点、王宮画廊から290点、後述するジュスティニアニーのコレクションから100点と記されている。なお、1830年設立のベルリン博物館の目玉は、これらとは別の、後述するソリー・コレクションである。

後述するように、ソリーのコレクションはプロイセン政府が正式に購入する以前からソリーの自宅で展示され、また、1830年開館のベルリン博物館に収納されるまでベルリン大学の構内に保管されていたので、ヘーゲルはそれを見る機会があったと思われる。宮殿画廊については、とくにフリードリヒ大王の指示で芸術アカデミーの学生や絵画愛好家に公開されていた。Helmut Börsch-Supan 編集による *Die Kataloge der Berliner Akademie-Ausstellungen 1786-1850*. Berlin 1971 に、次のように記されておりとても興味深い。

「私的コレクションは別として、ベルリンとポツダムにある画廊は、内容はドレスデンの場合と比べようもないとしても、画家たちに公開された。アカデミー振興に熱心に取り組んだフリードリヒ・ヴィルヘルム二世は、芸術家たちがサンスーシとベルリンの宮殿にある画廊の絵を学ぶことを許可した。管財人の許可証で夏の数ヶ月間『地元の芸術家だけでなく外部の芸術家もみな、自由に無料で入場し、模写したい巨匠の作品を自分で選ぶことができた』(1787 年 10 月 5 日の鉱山官メルターの講演)。ベルリンの宮殿にある画廊のなかで最も勝れていると見なされた絵画は、宮殿の特別室に展示され、そこで週に 4 日模写することができた。」(14 頁)

(1) 王宮画廊 Bildgalerie des königlichen Schlosses

王宮画廊のうち、ポツダムにあるサンスーシ宮殿の画廊についてはカタログが充実しているが、ベルリン王宮に関しては *Beschreibung der Gemälde welche sich in der Bildergalerie, den daranstossenden Zimmer und dem weissen Saale im Königl. Schlosse zu Berlin befinden*, von Johann Gottlieb Puhlmamm. Berlin 1790. が現在入手している文献では最も頼りになる。ここに記されているのは単数表記の「ベルリン王宮」であり、サンスーシ宮殿のカタログ掲載の絵画と重複するものがほとんどないこともあり、これはルストガルテンにあった王宮を指すと思われる。1913 年刊の *Königliche Museen zu Berlin. Die Gemäldegalerie des Kaiser-Friedrich-Museums* の増補第二版の序文に in den Schlössern zu Berlin, Charlottenburg, Potsdam und Sanssouci という表記が見られ、シャルロッテンブルクがベルリンと区別されていることから、こうした想定が可能だろう。

この 1790 年のカタログによると、ベルリン王宮の画廊(Bildergalerie)は、その 2 階に入口があり、12 本の柱で支えられた四角形の殿堂で、かつて宮廷礼拝堂として使われていたという。広さは 196×24 フィートで、268 点の絵画が展示されていた。そのうちカタログ番号 1 から 101 までは大画廊、102 から 131 まではその隣にある緑の間、132 から 169 までは青く塗装された間、170 から 204 までは白の広間の前にある緑の間、そして 205 から 268 までは白の広間で展示されていた。カタログは DVD 所収のファイルを参照願うこととし、ここではヘーゲルが言及している画家とその作品名のみ抜き出しておく。ここではファン・ダイクとルーベンスの作品の多さが目につく。

Albani, Franciscus

74. Die Ruhe der Maria auf der Flucht nach Egypten.

Buonarotti, Michel Angelo

96. Die Söhne Noah bedecken ihren betrunken Vater.

Caracci, Hannibal

75. Maria mit dem Kinde Jesu und der heilige Franciscus.

93. Magdalena, die über den Leichnam Christi weint.

Caravaggio, Michel Angelo Amerigi von

73. Eine Zigeunerbande.

Corregio, Zunahme des Antonius Allegri

12. Der heilige Franciscus betend. Ein Nachtstück.

Dürer, Albrecht

56. Ein Damensportrait.

Dyck, Anton van

20. Ein Mannsportrait.

21. Ein Frauenportrait.

26. König Carl der 1ste von England.

- 30. Die Familie König Carls des 1sten von England.
- 31. Die Gemahlin König Carls des 1sten, Henriette Marie.
- 38. Ein todter Christus mit Maria, Maria Magdalena und Johannes.
- 44. Ein heiliger Sebastian.
- 50. Ein heiliger Sebastian.
- 65. Das Portrait eines Künstlers.
- 68. Das Portrait eines Bildhauers.
- 113. Das Portrait einer Gräfin.
- 114. Die Gräfin Anna Sophia von Canarvaen.
- 118. Eine Dame im Nonnenkleide.
- 126. Die heilige Genealogie.
- 147. Portrait Wolfgang Wilhelms, Pfalzgrafen und Herzogs von Bayern, Jülich und Cleve.
- 158. Portrait einer jungen Prinzessin.
- 234. Ein Prinz von Oranien zu Pferde.

Holbein, Johann

- 59. Ein Frauensportrait.

Ostade, Adrian van

- 137. Das Portrait seiner Mutter.
- 184. Eine Bauerngesellschaft.

Rembrandt, Paul

- 19. Sein eignes Portrait.
- 22. Das Portrait seiner Frau.
- 28. Christus ruft den Zöllner Matthaeus zum Jünger.
- 146. Der zweite Traum Josephs.
- 157. Die Frau des Tobias bringt eine Ziege ins Haus.
- 162. Eine alte Frau mit Rebhühnern.
- 171. Der Raub der Proserpina.
- 185. Ein Hirte.

Reni, Guido

- 81. Ein heiliger Sebastian.
- 84. Portia.
- 91. Eine betrübte Maria.
- 97. Esther vor dem Könige Anasuerus.
- 104. Venus und Amor.
- 125. Fortund.
- 262. Lukretia, wie sie sich ersticht.
- 268. Diogenes in seiner Tonne.

Rubens, Petrus Paulus van

- 33. Christus bey Martha und Maria.
- 45. Meleager und Atalanta.
- 46.(und Franz Snyders) Ein Hirschjagd.
- 52. Die Neugierde der Töchter Cecrops.

- 61. Satyrs überfallen einige Nymphen im Bade.
- 70. Ein Bacchanal.
- 117. Ein Damensportrait.
- 170. Portrait einer Dame aus dem Hause Brandenburg.
- 204. Der Triumph des Bacchus in Indien.
- 226. Die büssende Magdalena.
- 228. Die Anbetung der Weisen.
- 229. Eine Hirschjagd.
- 241. Julius Caesar.
- 258. Der Kaiser Domitianus.

Steen, Johann van

- 213. Ein Wirthhaus.

Teniers, David

- 190. Die Versuchung des heiligen Antonius.
- 249. Eine ländische Scene.
- 254. Seine Familie.

Titian, Vecelli von Cadora

- 3. Der Raub der Dejanird.
- 7. Eine Danae.
- 11. Daniel Barbaro.
- 17. Portrait eines Mädchens.
- 88. Portrait einer Frau.
- 89. Eine sitzende Venus.
- 101. Venus und Cupido.

Wouwermann, Heinrich

- 69. Ein Pferdmarkt.
- 107. Eine Landschaft.
- 144. Eine Landschaft.
- 155. Eine Herberge.

Wouwermann, Peter

- 66. Ein Feldlager.

(2) サンスーシ宮殿画廊

通称フリードリヒ大王がとくに熱心に収集を指示した絵画が揃っている。まず、1764 年のカタログ(*Beschreibung der königlichen Bildergallerie und des Kabinets im Sans-Souci. Potsdam 1764*)を見よう。カタログそのものは DVD 収録ファイルを参照願うこととし、ヘーゲルが言及した画家のみその作品名を記す。ここでもファン・ダイクと、とりわけルーベンスの作品 38 点ははずば抜けて多い。

Albani, Franz

- 30. Venus und Adonis.
- 31. Venus und Adonis.

32. Venus mit ihrer Gesellschaft.
- Battoni, Pompeo
54. Die Vermählung der Psyche.
- Caracci, Hannibal
20. Adam und Eva.
21. Galathee.
- Caravaggio, Michel Angelo da
22. Diogenes.
- Correggio, Anton de Allegris da
16. Leda.
17. Jo.
- Dyk, Anton van
95. Der seegnende Isaac.
96. Johannes der Täufer und der Evangeliste.
97. Die Verspottung Christi.
98. Die Sendung des heiligen Geistes.
99. Die vier Evangelisten.
100. Salvator Mundi.
101. Die Mutter des Gottmenschen.
102. Venus in der Werkstatt des Vulcanus.
103. Rinaldo und Armida.
104. Das Bildniß einer Mannsperson.
105. Das Bildniß eines Bildhauers.
106. Das Bildniß einer jungen Dame.
107. Ein Knabe.
108. Maria Magdalena.
- Guido, Reni
24. Maria.
25. Venus bey ihrem Nachttische.
26. Simon und Pero.
27. Cleopatra.
28. Die Entführung der Europa.
29. Ein Engel.
- Raphael, Sanctio d'Urbino
9. Loth mit seinen beiden Töchter.
10. Eine heilige Familie.
11. Der Kopf des Heilandes.
12. Die Psyche.
- Rembrandt, van Rhyn
111. Moses und der Gesetztafeln.
112. Eine Begebenheit eines Prinzen von Geldern.
113. Ein Mann.

114. Das Bildnis des Rembrandts.

Rubens, Peter Paul

55. Abraham opfert seinen Sohn, Isaac.
56. Die Errichtung der ehernen Schlange.
57. Die klusche Susanna.
58. Die Beschenkung Christi um den heiligen drey Königen.
59. Das Hedrodias Tochter.
60. Die Auferweckung Lazari.
61. Die Auferweckung aus der Hölle.
62. Das Kind Jesus und Johannes.
63. Zwey Kinder.
64. Die heilige Familie.
65. Die Himmelfahrt Maria.
66. Die heilige Familie.
67. Die heilige Familie.
68. Maria.
69. Maria.
70. Die heilige Cecillia.
71. Die busfertige Maria Magdalena.
72. Die heilige Barbara.
73. Der Raub der Dejanira.
74. Die Vergötterung der Psyche.
75. Monime.
76. Perseus und Andromeda.
77. Orythyja vom Borreas geraubt.
78. Apollo und Euridice.
79. Venus.
80. Eine allegorische Vorstellung.
81. Das Bildniß Jacob Jordans und seiner Frau.
82. Ein Mannsbild.
83. Eine Gesellschaft.
84. Drey Frauenzimmer.
85. Ein Frauenzimmer.
86. Ein Knabe.
87. Ein Mädgen.
88. Vier Kinder.
89. Die Vermählung der heiligen Catharina.
90. Die Bartsaben.
91. Maria mit verschiedenen Heiligen.
92. Verschiedene Engel.

Teniers, David der jüngere

116. Die Versuchung des heiligen Antonios.

117. Ein Alchymiste.

118. Eine Bauerngesellschaft.

Titian, Vecellio da Cadore

3. Maria mit dem Kinde Jesus.

4. Danae.

5. Eine liegende Venus.

6. Venus und Aldonis.

7. Leda.

8. Der Bildniß des Peter Aretino.

Vinci, Leonard da

1. Christus bey der Martha und Maria.

2. Maria mit dem Kinde Jesus.

1770 年のカタログ(*Beschreibung der Königlichen Bildergallerie und des Kabinets im Sans-Souci*. 2. verm. und verb. Aufl. Potsdam 1770)では、展示総数が 168 と記録されている。そのうちイタリア絵画が 65、フランスが 7、オランダが 96 で、78 点が画廊(Gallerie)に、90 点が陳列室(Cabinett)に展示されているという。

Albani 3 点

Battoni 1 点

Caracci 2 点

Caravaggio 1 点

Corregio 8 点

van Dyck 15 点

Leonard da Vinci 3 点

Raphael.5 点

Guido Reni 4 点

Rembrandt 4 点

Rubens 39 点

Titian 9 点

これとは別に、有名な絵画の銅版画も所蔵されていると記されている。von 以下の人名は原作を模写して銅板を彫った人とその出身地。

1) Leonardo da Vinci, Christus bey Martha und Maria, von Seuter in Augsburg gestochen.

2) Titian Danae, von Punt im Amsterdam.

3) Titian, das Bildniß des Aretin, von Daniel Berger in Berlin gestochen.

4) Raphael d'Urbio, Loth mit seinen beyden Töchtern, von Preisler in Copenhagen gestochen.

5) Andrea dell Sarto, die heilige Familie, von Seuler in Augsburg gestochen.

6) Julius Romanus, Orion, von Daniel Berger in Berlin gestochen.

7) Corregio; Maria, von Danier Berger in Berlin.

8) Spagniolett, der heilige Petrus, von Rugendas in Augsburg gestochen.

9) Procaccini, die Ehebrecherin, von Seuter in Augsburg gestochen.

- 10) Chevalier Cellesti, die Verspottung der Hagar, in Augsburg gestochen.
- 11) Caravaggio, Diogenes, von Daniel Berger in Berlin gestochen.
- 12) Car Maratti, die Himmelfahrt der Maria, in Augsburg gestochen.
- 13) Rembrandt, der Prinz von Geldern, von Daniel Berger in Berlin.
- 14) Rembrandt, Moses mit den Gesetz-Tafeln, auch von Daniel Berger in Berlin.
- 15) Johann Lievens, der segnende Jacob, von Krüger in Potsdam gestochen.
- 16) Rembrandt, das Bildniß des Rembrandts, von Krüger in Potsdam.
- 17) Anton van Dyk, Maria Magdalena, von Krüger in Potsdam gestochen.
- 18) Rembrandt, ein Mann in orientalischer Kleidung, von Krüger.
- 19) Ferdinand Boll, des Königs Belsazers Gastmahl, von Krüger.
- 20) Govaerd Flink, die Verstoffung der Hagar, von Krüger.
- 21) Gerard Dow, ein Eremit, auch von Krüger in Potsdam.
- 22) Gerard Dow, eine alte Frau, auch von Krüger.

最後に、ヘーゲルがベルリンにいた時期の 1819 年のカタログ(*Sans-Souci, die Bilder-Galerie, das neue Schloß, und der Antiken-Tempel, erbaut von Friedrich den Zweyten. Potsdam 1819*)を紹介しよう。ここでもヘーゲルが言及している画家とその作品のみ記し、詳細は DVD 収録のファイルを参照願いたい。

なお、当時の画廊(Galleriesaal)の広さは 258x36 フィート、壁の高さは 36 フィートと記されている。

Albano

Die Toilette der Venus.

Venus und Adonis.

Batoni

Die Vermählung von Amor und Psyche.

Annibal Caracci

Mars und Venus.

Der Schlangenbiß der Israeliten.

Corregio

Eine Venus mit Amorn im Bade.

Jo und Jupiter in einer Wolke.

Die drey Epochen der Liebe.

Eine Madonna mit dem heiligen Antonius.

Der Streit über Musik zwischen Dummheit und Klugheit.

Maria auf der Flucht nach Egypten.

van Dyck

Rinaldo von Armida auf einer wüßten Insel geführt und von einer Syrene durch Gesang eingeschläfert.

Die Frau des den Dyk als Venus vorgestellt.

Die vier Evangelisten.

Venus erhält vom Vulcan die Waffen für den Aeneas.

Eine büßende Magdalena.

Der Segen Isaaks.

Johannes der Täufer und Johannes der Evangelist.

Die Verspottung Christi, das schönste Gemälde des van Dyck.

Die Sendung des heiligen Geistes.

Rubens Bildniß.

Der Bildhauer Fiamingo.

Ein Amor, der auf Schlittschuhen läuft.

Die Kreuzigung Christi.

Eine heilige Familie.

Eine Maria.

Der Sänger Liberti.

Mengs

Eine heilige Familie.

Raphael

Eine heilige Familie mit der heiligen Anna.

Eine heilige Familie, im Styl des Perugins.

Rembrandt

Sein eigenes Portrait.

Moses zerbricht die Geetztafeln.

Prinz Adolph von Geldern hat seinen Vater ins Gefängniß setzen lassen und droht ihm; ein sehr schönes und fleißig ausgeführtes Gemälde.

Portrait eines Juden Pinto.

Guido Reny

Die Entführung der Europa.

Die Toilette der Venus.

Ein sehr seltnen Christuskopf.

Ein Engelskopf.

Rubens

Susanna mit den beiden Alten.

Die Entführung der Dajanira vom Centaur, Messus, den Herkules mit einem Pfeil erschossen.

Eine heilige Cäcilia.

Rubens mit seiner Frau.

Eine Mutter mit dem Kinde.

Christus steigt aus der Hölle als Sieger über Sünde und Tod.

Eine heilige Familie.

Die Seelen der unschuldigen Kinder opfern dem Jesus-Kinde ihre Palmzweige als erste Märtyrer.

Eine Maria mit dem Jesus-Kinde in der Glorie.

Eine Frau des Rubens als heilige Barbara.

Die Krönung der Maria.

Eine Allegorie, Heinrich dem 4ten wird von der glücklichen Regierung und der Zeit die Gelegenheit zugeführt.

Maria mit vielen Heiligen umgeben.

Rubens mit seinen Frauen und seinen Freunden von Amoretten umschwärmt.

Drey Nymphen, die mit dem Horn des Ueberflusses spielen.

Der Schlangenbiß der Israeliten.
Die Auferweckung Lazarus.
Perseus und Andromeda.
Die Vergötterung der Psyche, eine Copie von Rubens nach Raphael.
Jesus und Johannes.
Romulus und Remus.
Vier Kinder mit Früchten spielend.
Die Tochter Herodias empfängt das Haupt Johannis.
Der Sohn des Rubens.
Die Tochter des Rubens.
Nymphen, die sich haben Skizze.
Die Himmelfahrt Maria, Skizze.
Orpheus und Curivice der Pluto.
Ein Satyr, der ein Nymphe umarmt.

Teniers

Ein Alchymist.
Bauern, so im Brett spielen.
Die Versuchung des heil. Antonius.
Eine Landschaft.
Ein Concert von Engeln.

Titian

Hymen muß sich erwärmen an dem Feuer, so die Liebesgötter mit ihren Pfeilen unterhalten sollen. Venus gebietet Stillschweigen, um den schlafenden Adonis nicht zu wecken, dessen Herz an dem Feuer erwärmt wird.
Eine liegende Venus nebst dem schlafenden Amor.
Eine schlafende Venus.
Jupiter und Leda.
Der goldene Regen.

Leonardo da Vinci

Bertumnus unter der Gestalt einer alten Frau, überredet die Pomona, ihn zu lieben, eins der seltensten, sehr ausgeführten und wohl konservierten Gemälde des Leonaldo da Vinci, in ganzen Figuren, Lebensgröße.
Christus bey Martha und Maria.
Portrait des Titian mit seiner Gelieben.
Eine Madonna mit dem Jesus-Kinde.

(3) ベルリン博物館

パリやウィーンに劣らぬ博物館をベルリンに建設しようという計画は 18 世紀末に立てられ、その準備が進められた。サンスーシ宮殿を含む宮殿画廊には 1812 年時点で総数 2244 点の絵画があり、そこから新しい博物館のために 378 点が選ばれた(Vgl. *Königliche Museen zu Berlin. Die Gemäldegalerie des Kaiser-Friedrich-Museums. Vollständiger beschreibender Katalog mit Abbildungen sämtlicher Gemälde*. Im Auftrag des Generalverwaltung der Königlichen Museen bearbeitet von Hans Posse. 2 Abteilungen. Berlin 1911, 2.verm. Auf., 1913)。

しかし、新しい時代に見合ういわば展示の目玉になる作品を新たに大量に入手すべく、プロイセン政府は、いくつか売りに出していたコレクションに目をかけた。まず、パリにあったジュスティニアニ(Vincenzo Giustiniani, 1564-1637)のコレクション 157 点を 1815 年に購入、このうち 73 点が新博物館の展示候補とされた。作品は 1827 年までベルリン大学の構内に収蔵されていた。ベルリンで購入した主な作品としてはカラッチの *Christus am Kreuz* と *Römische Landschaft*、カラヴァッジョの *Grablegung Christi*、*Brustbild eines Mannes*、*Brustbild einer jungen Frau*、*Der hl. Matthaeus*、*Amor als Sieger*、*Himmlische und irdische Liebe* などがある。

ゲーテやシュレーゲルなどの意見を参考にしてボアスレ・コレクションの入手に努め、1816 年著名な建築家 シンケル(Karl Friedrich Schinkel, 1781-1841)をハイデルベルクに 3 週間滞在させて交渉したが、資金面で折り合いがつかず、入手に失敗した。ヘーゲルはボアスレ・コレクションをプロイセンが購入することを強く望んでいたが、1820 年 7 月 17 日付のボアスレとその友人でコレクションの共同所有者ベルトラム(Johann Baptist Bertram, 1776-1841)に宛てた彼の書簡には、期待が叶わなかった無念さが滲み出ている。

学術目的やコレクション、芸術のためにここ[ベルリン]ほど多くの費用が費やされるところはどこにもありません。財政はしっかりしており貯金も同様です。[中略]シュトゥットガルトがあなたの方にとって都合が良く、あなたの方のコレクションが展示において相応の榮譽を受けていることは私もしばしば聞いており喜ばしく思っています。(Nr.371a)

ボアスレ・コレクションがシュトゥットガルトへ移されたのは 1818 年、将校の展示館に収蔵されたのち 1819 年 5 月から市民に無料で開放された。だがそこは 1827 年 5 月 27 日に閉鎖となり、同年バイエルン王ルートヴィヒ一世がこれを購入、シュライスハイム宮殿で展示・公開されることになった。これがさらにアルテ・ピナコテークに移されたのは 1836 年以降である。

ボアスレ・コレクション入手に失敗した理由は、これと並行して進めていたイギリス商人ソリー(Edward Solly, 1776-1848)のコレクションを 1821 年に購入し、資金が尽きたためである。ソリー・コレクションは約 3000 点、そのうち 677 点が新博物館用に選ばれた。スクヴィルブリース(Robert Skwirlbries)の *Ein Nationalgut, auf das jeder Einwohner stolz sein dürfte. Die Sammlung Solly als Grundlage der Berliner Gemäldegalerie*, in: *Jahrbuch der Berliner Museen*, Bd.51, 2009, S.69 によると、ロマン派の作家アルヒム・フォン・アルニムの 1817 年 6 月 15 日付書簡からイギリス商人ソリーの絵画コレクションのことを知ったゲーテが、プロイセンの新たな博物館計画を担当していた大臣官房フリードリヒ・シュルツ(Friedrich Schulz, 1795-1864)にそれを知らせたことから、買取計画が始まったという。ソリーは当時ベルリンの中心ヴィルヘルム通り 67 番地に住んでいた。1830 年創設予定のベルリン博物館は彼の家のすぐ近く(Behrenstraße 66)だった。シュルツはソリー・コレクション入手に積極的に取り組み、1821 年 11 月 15 日にこれを購入、しばらくソリーの自宅に保管されたのち、1823 年から 1830 年のベルリン博物館完成までベルリン大学構内に収蔵された。ソリー・コレクションの特徴は、これまでベルリンの画廊では不足していたイタリア絵画を多く含むことであつた(主要作品のリストが前掲書に掲載されている。)たとえば、フィリッポ・リッピ(Fra Filippo Lippi)の *Maria, das Kind verehrend, mit dem kleinen Johannes und dem hl. Bernhard* や *Maria mit dem Kinde*、*Maria als Mutter des Erbarmens*、その息子 Filippino Lippi の *Maria mit dem Kinde*、*Christus am Kreuz*、*von Maria und Franziskus verehrt*、ラファエロの *Maria mit dem Kinde*、ティチアーノの *Bildnis eines jungen Mannes* や *Selbstbildnis des Malers* などがある。

1823 年 5 月 6 日付のクロイツァー宛書簡でヘーゲルはつぎのように報告する。

私たちの大きな博物館が建てられることはすでに決まっています。この春には[準備が]開始されるでしょう。国王が 10 万ターレルをそのために出してくれました。

「私たちの博物館」とヘーゲルが誇らしげに語る博物館は、ベルリン博物館(Berliner Museum)であり、現在の Altes Museum であるが、この開館は 1830 年 8 月 3 日であった。開館と同時に展示カタログ(*Verzeichniss der Gemälde-Sammlung des Königlichen Museums zu Berlin*, Berlin 1830)を書いたのは、1827 年から博物館建設委員となり、1830 年から 64 年までの長期に亘り同館館長を務めたヴァーゲン(Gustav Friedrich Waagen, 1794-1868)である。彼はハイデルベルクでヘーゲルの講義を聴講したことがあった。

ベルリンでの博物館構想の実現を任せられた建築家のシンケルは、1823 年、これまでフンボルトらによって提示されていた、博物館の大学内設置案を退け、数百頭の馬がいた家畜小屋に建設するよう提案した。博物館正面を古典的神殿形式とし、中央にロトンダ(円形ホール)を置き、全体をローマ風パンテオンとした。訪問者はここから古代彫刻の鑑賞に入り、絵画は二階に展示された(シンケルがこの博物館建設に具体的にどのような関わったかについては *Aus Schinkel's Nachlaß. Reisetagebücher, Briefe und Aphorismen*, Bd.3. Berlin 1863, S.217-327 を参照せよ)。ヒルトは、博物館は古美術品の学習と手工業者や教員の教育に役立つべきだと主張し、古代彫刻の石膏模型を受け入れたが、博物館委員会委員長となったヴィルヘルム・フォン・フンボルトがこれを拒否、博物館を有用性から解放し、「自立的な芸術享受」を求めた(Vgl. Otto Pöggeler, *Hegel und der Berliner Museumsstreit*, in: *Kunst als Kulturgut. Band III. Musealisierung und Reflexion. Gedächtnis - Erinnerung - Geschichte*. München 2011, S.103)。皇太子は 1828 年夏、シンケルと親しい芸術史家のヴァーゲンを博物館委員会委員に加え、芸術の利用を優先させるヒルトを退け、「まずは喜びを、次いで教育を」とする要項をまとめ、新しい博物館の理念とした(ibid., S.106)。そして無償の公開を原則とした。

18 世紀までの絵画館や画廊の光景を見ると、大小さまざまな額に納められた絵画が壁一面天井から床まで所狭しとびっしり掲げられているのに驚かされる。同時に描かれた鑑賞者の背丈から察するに、天井すなわち壁の高さは優に 4 メートルを越え、上のほうに掛けられた絵など細かい描写はほとんどわからないのではないかと思われる。こうした状況について、ヘーゲルは美学講義で、限りなく多様なものをばらばらに並べ、個々の絵画の独自性などほとんどわからない無意味な乱雑だ、と評している(Werke, Bd.15, S.108)。

学習と感性溢れる享受にとって最も目的に適うのは歴史的な展示であろう。コレクションは、歴史的に並べればその様式において唯一で計り知れず、われわれはやがてここ[ベルリン]に設立される王立博物館の画廊で、たんに技術的なものの進歩といった外面的な歴史だけでなく、内的な歴史の本質的な進歩を、作風や対象、その理解や扱い方の違いにおいて明らかに認識しうようになるであろう。(ibid.)

全集版美学講義編者のホーは「この表現は 1829 年 2 月 17 日に行われた講義からとった」と註をつけている。前述のように、ベルリン博物館の開館は 1830 年である。ヘーゲルはその絵画館の展示のあり方について、歴史的に並べるよう主張したわけである。18 世紀末までの芸術展示の歴史を研究するコッホ(Georg Friedrich Koch, *Die Kunstausstellung. Ihre Geschichte von den Anfängen bis zum Ausgang des 18. Jahrhunderts*. Berlin 1967. S.263f.)によれば、パリの芸術アカデミーの展示カタログは芸術家の名簿や作品名をアルファベット順に並べるのが一般的で、歴史的な扱いがなされるのは 1800 年頃からだという。これらの情報から察するに、絵画を時代順に配列することはヘーゲルの独創というわけではなく、また、ヘーゲル自身にとって歴史性重視は一般原則であろうから、美学講義の前述の発言は、それでもなおばらばらな展示が目立つ現状を嘆きつつ、このたび開設されるベルリン博物館への期待を述べたものと思われる。

(4) ベルリン芸術アカデミー

ベルリンには宮殿の画廊とは別に、1696 年設立の芸術アカデミーがあった。1786 年にチョドヴィエツキ(Daniel Nikolaus Chodowiecki, 1726-1801)とハイニッツ(Friedrich Anton von Heinitz, 1725-1802)による改革が

行われ、アカデミーを公共団体(öffentliche Sozietät)と位置づけ(Hans Müller, *Die königliche Akademie der Künste zu Berlin 1696 bis 1896*. Erster Teil. Berlin 1896, S.160.)、プロイセン初の芸術作品公開展示を行った。公開展示は2年ごとに行われ、おもに画学生の習作だが、見本として原作も数点展示された。1786年に332点の作品が展示され、1800年には435点、ヘーゲルのベルリン在任中の1820年は543点、22年668点、24年781点、26年1065点、28年1108点、30年1344点と出品数は毎回伸びている。ヘーゲル没後の記録ではあるが1836年の入場者は11万1954人、当時のベルリンの人口が30万人であることを考慮するとその盛況ぶりがうかがえる(*Die Kataloge der Berliner Akademie-Ausstellungen 1786-1850*, bearbeitet von Helmut Börsch-Supan. Registerband. Berlin 1971. Einleitung.)。

以下に、ヘーゲルが見ることができた時期のその展示作品から、ヘーゲルが言及している画家の模写作品の数を挙げるならば、以下の通りである。ラファエロの人氣がダントツである。キューゲルゲンは、アカデミーの教員でもあり、在任中に死亡したため遺作が展示された。

Batoni	1820年1点
Caracci	1820年2点、1822年2点、1824年3点、1826年1点
Correggio	1822年3点、1824年3点、1826年1点、1828年3点
van Dyck	1822年6点、1824年5点、1826年2点、1828年1点
van Eyck	1822年1点、1826年1点:
Kügelgen	1822年3点
Leonardo da Vinci	1822年1点、1824年1点、1826年3点
Mantegna	1822年1点、1826年1点
Memling, H.	1820年2点
Mengs, R.	1820年1点、1822年2点、1828年1点
Murillo	1826年1点
Ostade	1826年2点、1828年1点
Raphael	1822年12点、1824年10点、1826年18点、1828年16点
Rembrandt	1820年1点、1824年3点、1826年2点、1828年1点
Reni, G.	1820年7点、1822年4点、1824年2点、1826年1点、1828年5点、1830年2点
Teniers	1824年1点、1826年3点、1828年1点

* ベルリンにある、プロイセン文化財団所蔵の絵画の画像ファイル(すべてではない)は次のサイトで閲覧できる。<http://www.smb-digital.de/eMuseumPlus>